

この本を薦めます

学会誌前編集委員長 佐々木 葉

第20回



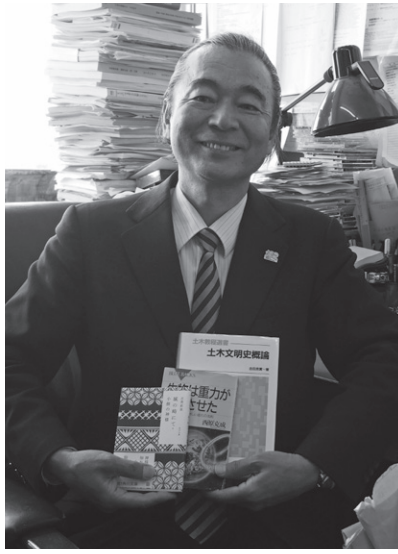
依田照彦

「土木学会の100年」編集特別委員会委員長
早稲田大学 教授

「土木学会の100年」は学会活動の歩みを網羅した大部の資料である。その編纂の長が依田先生である。先生の日頃の姿勢の一端を映す3冊を紹介いただいた。

依田先生は永らく教育と人材育成の委員会活動もされている。あらゆるものが発想のヒントとなる。そのままに示は四六時中世界を観察している。土木、力学、数学への深い愛は、常に知のオリジナルへ向かう。新しい発想がうまれてきた過程が、そこにはありありと映し出されているからだとおっしゃる。深夜零時より前に研究室を離れることはない。締め切りより必ず早

く仕事を終える。学者の鑑かがみのような先生が選ばれた三冊には、題名だけからは伺えない理由があった。まず『城の崎にて』。転がった蜂の死骸の描写を教科書で読んだ方も多いであろう。このごく短い作品を、先生は原稿を書く前に必ず読む。これを読んだから書き始める。短く、簡潔な文章。鋭い観察眼がとらえた正確な描写。志賀直哉の「書く」という姿勢と技量が集約した文章を、ご自身にインプットしてから始めるのだ。手に届くところに何冊もこの本はあり、鞆には拡大コピー



YODA Teruhiko

1946年東京都生まれ。早稲田大学理工学部土木工学科卒、同大学院建設工学専攻修了。専門は、構造工学、橋梁工学。橋梁の健全化・長寿命化・強靱化が現在の研究テーマ。

が集約した文章を、ご自身にインプットしてから始めるのだ。手に届くところに何冊もこの本はあり、鞆には拡大コピー

したものが入っている。本に対してこうしたスタンスをお持ちの方に私は初めてお会いした。次いで『土木文明史概論』。著者の合田先生への敬意からたどり着いたこの本は、土木の全体像を知るに最適という理由から選ばれた。日本と世界の歩みを同時に見渡せる。題目のとおり土木とは文明の歴史であることを実によくわかりやすく伝える。そうした歴史観をもてば、つくることだけでなく残すことの意味もわかってくる。錦帯橋の研究をはじめ、土木史研究にもご理解が深い依田先生ならではのセレクションである。そして『生物は重力が進化させた』。ブルーバックスは400冊ほどの蔵書をお持ちとおっしゃる。先生の力学

への飽くなき探究心は生物に多くの驚きとヒントを見いだす。生物の形と構造。代謝による生命の持続と長寿命化。多様性。この本には首を傾げるところもある。しかし他の人とは違っている点から生物の進化をとらえているのが面白い。ダーウィンもマルサスの人口論から着想を得たという。個性を出すための濫読は寛容な姿勢をつくりあげる。さて、私もKindle版で『城の崎にて』を読んでからこの原稿を書いた。できるかぎり短い文で簡潔にと。できればともかく、書くという行為に新鮮な感覚がともなった。本は読み手によってその存在が広げられることを学んだ。



城の崎にて・小僧の神様

志賀直哉：
角川文庫



土木文明史概論

合田良實：
鹿島出版会



生物は重力が進化させた

西原克成：
講談社ブルーバックス